

宮前区区民会議 宮前区の宝さがし～ときめき再発見～部会 検討経過  
(5月～7月)

区民会議  
全体会

平成21年  
5月29日

部会検討経過の報告

第2回部会 平成21年  
6月25日 具体的な課題解決策について

■具体的な課題解決策について

- 【マップづくりの手法や形式】
  - ・グリーンフォーラム21みやまえや平瀬川流域まちづくり協議会のマップづくりの実例を参考にしたマップづくり
  - ・レイヤー形式の導入による多様な地図の組み合わせ
- 【カルタづくりの手法や形式】
  - ・小学生時代を群馬で過ごした人なら誰でも知っているという「上毛かるた」の事例の紹介
- 【その他・全体の進め方など】
  - ・既存の活動をベースに地域を巻き込んでいく

【配布資料】

- ・議論ペーパー
- ・宮前区の資源一覧
- ・他地域における先進事例について（上毛かるた）

第3回部会 平成21年  
7月9日 具体的な課題解決策について

■具体的な課題解決策について

- ・区政30周年（H24）に向け、8地区（中学校区）別の資源カルタの制作に取り組む。
  - ・地区毎に市民活動団体や地域の人材が核となる、実行委員会を立ち上げる。
  - ・最終的に教育現場、特に小学校の総合学習の場で活用してもらえるカルタを目指し、小学生をメインターゲットとする。
  - ・区政30周年の記念事業の一環として、8地区別の資源カルタから選抜された「（仮称）宮前区の宝物カルタ」の制作に取り組む。
  - ・完成したカルタの活用を通して、宮前区の資源を宝に、宝を顔に押し上げていく。
- ※今後の検討課題  
取組のスケジュール、担い手、趣旨説明のチラシ作成など取組計画の具体化

【配布資料】

- ・議論ペーパー
- ・具体的な課題解決策の検討に向けての整理
- ・宮前区の資源一覧
- ・平瀬川まちづくり協議会のマップづくり関連資料（松井委員提供）

宮前区区民会議 宮前区の宝さがし～ときめき再発見～部会 検討経過  
(2月～4月)

平成二十年度

第7回部会 平成21年 3月3日 区民会議フォーラムについて  
今後の議論の方向性について

■区民会議フォーラム（3月15日開催）について

- ・区民会議フォーラム分科会の検討項目、進行方法、全大会での発表も含めた役割分担について決定。
- ・FMかわさきでのPRについて、永野委員長の出演を決定。

■今後の議論の方向性について

- ・みやまえ映像コンクールについて地域の資源を紹介する手法のひとつとして捉え、区民会議フォーラム会場で映像を流すことを決定。
- ・地域対抗の宝物コンペ、区民の観光大使など、地域の資源や宝物を発掘、共有していくアイデアについて意見交換した。

【配布資料】

- ・平成20年度宮前区区民会議フォーラム分科会（宝さがし）の進め方について（案）
- ・議論ペーパー
- ・具体的な課題解決策 検討資料

区民会議フォーラム 平成21年 3月15日 平成20年度検討内容の報告

平成二十一年度

第1回部会 平成21年 4月13日 今後のスケジュールと進め方について  
具体的な課題解決策について

■今後のスケジュールと進め方について

- ・9月の部会で議論をまとめ、11月の第3回区民会議全体会で、提案内容をオーソライズするスケジュールで、今後の検討を進める。

■具体的な課題解決策について

- ・小学校区～中学校区単位を基本とした地域での資源や宝物の発掘、共有作業を進める。
- ・メタボ対策ウォーキングマップ、眺望ポイントマップ、お花見マップ、昆虫マップ、駅周辺観光マップなど地域レベルでの様々なテーママップづくりに地域やそれぞれの活動団体が特色を活かしながら取り組む。
- ・野川カルタや映像コンクールなどの取組がより広く区民に知られ、地域の魅力を紹介する活動として区域全体に広がるようにする。
- ・それぞれの取組に更なる演出や”お楽しみ”を加え、様々な背景を持つ区民や、多世代の区民が参加できるように工夫する。
- ・できる地域からモデル的に取組を実施し、手法の検証、検討等行いながら、段階的に取組を広げていく。

【配布資料】

- ・今後のスケジュールと進め方について（案）
- ・宮前区の宝さがしアンケートのまとめ
- ・議論ペーパー

委員参与との意見交換会 平成21年 4月20日 中間報告等に関する参与との意見交換

宮前区区民会議 宮前区の宝さがし～ときめき再発見～部会 検討経過  
(11月～1月)

区民会議 平成20年 10月までの審議状況を報告  
全体会 11月16日

第5回部会 平成20年 地域の資源について  
12月16日 具体的な課題解決策について

■宮前区の資源（宝物・顔の候補）の取り扱いについて

- ・区民会議が宝物・顔を決めるわけではなく、今後、宝物・顔を作りあげていくにあたって、区民会議として地域に提示できる「資源」に留めておくもの
- ・現在の資源は、事務局の作成したものに、部会委員の意見が反映されたものなので、もっと広く区民から募ってみる必要がある。

【配布資料】

- ・宮前区の資源（宝物・顔の候補）
- ・議論ペーパー

■具体的な課題解決策について

- ・コミュニティの活性化を目指すことを考えると、地域ごとに宝を発見するプロセスそのものが重要となる。
- ・子どもが参加できるような仕掛けがあるといい。
- ・具体的な課題解決策を検討するにあたり、地域のイベントや各種団体に宝さがしをしてもらってはどうか。

第6回部会 平成21年 具体的な課題解決策について  
1月16日 区民会議フォーラムについて

■具体的な課題解決策について

- ・具体的な課題解決策を審議するためのシミュレーションとして、地域のイベントなどの機会や各種団体に宝さがしを行ってもらおう。
- ・この宝さがしは、2～3月に行われるイベント（まちづくり広場ラプみやまえ(2/21)、ディスカバーウォーク(2/22)、文化講演会(2/28)、みやまえ映像コンクール(2/28))で協力してもらったり、区民会議委員が所属する団体に依頼するなどしてできるだけ年度内に宝を出してもらおうようし、区民会議フォーラムに活かす。
- ・この宝さがしでは、どのような宝が出てくるか、どのような出され方(≒協力度合い)といった点も含めて検証する。

【配布資料】

- ・議論ペーパー
- ・宮前区の資源一覧(カテゴリ別・地域別)
- ・平成20年度宮前区区民会議フォーラムについて(案)

■区民会議フォーラムについて

- ・地域活動事例の紹介として、野川カルタに取り組んでいる地域に参加を依頼することに決定。
- ・分科会では、地域の宝・宮前区の顔に関する「夢」を語り合うこととし、この「夢」を踏まえて、今後の審議を深めていくこととした。

宮前区区民会議 宮前区の宝さがし～ときめき再発見～部会 検討経過  
(8月～10月)

区民会議 平成20年 7月までの審議状況を報告  
全体会 8月6日

第3回部会 平成20年 宮前区の宝・顔に関する現状と取組について  
9月22日 宝や顔があるまちのイメージについて

■宝物となりうる資源の分類・整理がまず必要である

現状について議論する中で、宝物となりうる資源の分類・整理の必要性について議論された

- ・大分類としては、4～5分類くらいに分けられると良い
- ・これからつくりあげていくもの、すでにあるもの
- ・ハードとソフト又は、見えるもの、見えないもの
- ・観たい価値、買いたい価値、住みたい価値

【配布資料】  
・議論ペーパー

■地域の資源はどうなったら「宝物」や「顔」と言えるのか？

- ・宝物になるということと、顔になることの意味は少し違う
- ・宝物は秘伝・秘密の物や潜在的な物もあるが、顔は外から見ても明らかな存在
- ・より広い範囲の人々から見ても「宝物」と言えるものが「顔」である
- ・顔はいくつもあってはおかしい。顔というところ程度絞り込まれる
- ・宝物を顔に「押し上げていく」のではない
- ・顔には戦略が入っている

第4回部会 平成20年 課題解決策に向けた進め方について  
10月24日 地域の資源について

■資源の性質別の分類

資源の性質別の分類として次の5項目を選定

- ① 自然 風景・緑・水・生物・植物など
- ② 歴史文化 史跡・伝承・芸術・ゆかり人物など
- ③ 暮らし・産業 産物・農業・工業など
- ④ ふれあい・交流 イベント・スポーツ・市民活動など
- ⑤ まち・施設 商店街、ランドマーク、建築物、施設など

【配布資料】

- ・宮前区の資源の整理・課題解決策の提案に向けた検討資料
- ・議論ペーパー
- ・宮前区の資源（宝物・顔の候補）

■資源を「楽しむ」という視点での分類

資源の価値を評価する指標として次の3項目を選定

- ① みたい（見・観）・ききたい（聞・聴）
- ② 買いたい・食べたい
- ③ やってみたい

■具体的な課題解決策イメージ

- ・資源を宝物に、宝物を顔に押し上げていく具体的なプロセス
- ・宝・顔に押し上げた区の資源を内外にPRするための具体的な手法

宮前区区民会議 宮前区の宝さがし～ときめき再発見～部会 検討経過  
(5月～7月)

区民会議 平成20年 文化・観光、緑、産業、まちづくりパワーなど様々な課題を包含する  
全体会 5月23日 宮前区らしさ(=宮前区の顔)を審議テーマに選定

第1回部会 平成20年 部会名称の決定  
6月23日 具体的な審議テーマについて

■部会名称は「宮前区の宝さがし部会～ときめき再発見～部会」に決定

・部会名称決定に先立って行われた、フリートーキングで出された「再発見」「ときめき」「宝物」「地域」などのキーワードをもとに、協議の結果「宮前区の宝さがし部会～ときめき再発見～」を部会名称として決定した。

■具体的な審議テーマについて

・各委員の考える或いは知っている宮前区の「顔」や「宝」についてフリートーキングを実施

⇒出された意見は、次の項目に分類

- ①なぜ「顔」や「宝さがし」が必要なのか？
- ②なぜ宮前区には「顔」といえるようなものがないのか？
- ③どうなれば、それが宮前区の「顔」「宝物」と言えるか？
- ④どんなものが宮前区の「顔」や「宝物」となりうるか？
- ⑤課題解決策提案の上で鍵になりそうなこと
- ⑥参考になりそうな事例や他地域の話

【配布資料】

- ・宮前区の『顔』 検討対象絞込みのためのメモ
- ・宮前区の『顔』づくりに関する委員意見・提案
- ・宮前区観光資源一覧

第2回部会 平成20年 今後の審議の進め方について  
7月15日 宮前区の宝をさがす目的について  
宮前区のイメージについて

■今後の審議のスケジュール・進め方

・結果的に公園・地域づくり部会と同様の進め方となった  
(任期2年間を通して審議していく)

■宮前区の宝をさがす目的

・宮前区の宝を探すこと目的(宝や顔があることによるメリット、宝や顔を持つことで最終的に目指すもの)について意見交換  
⇒具体的な結論には至らなかったが、次のようなキーワードが出された  
共有意識・コミュニケーション・まちへの愛着・より良いまちにしていこうという意欲・目に見える宝物と見えない宝物(風土) etc...など

【配布資料】

- ・宮前区の宝さがし部会～ときめき再発見～の審議の進め方について
- ・議論ペーパー(白紙)
- ・宮前区の宝をさがす目的を確認するための議論用メモ
- ・現在の宮前区の成り立ちと開発等との関係について
- ・ホームページや雑誌等の紹介にみる「宮前区」
- ・川崎市及び区政に関する市民1万人アンケート(抜粋)
- ・宮前区の地域資源一覧

■内外から見た宮前区のイメージ ～「宝」をさがすための1つの手がかりとして～

・現在の宮前区がどういった経緯でまちづくりが行われてきたのか、「多摩田園都市構想」の概略を共有  
⇒特に宮前地区については、特定の会社の戦略のもと「良好な住宅地」という一定のイメージのまちづくりが行われてきた  
・雑誌やホームページでの宮前区の紹介のされ方をみると、「住環境がよい」という評価がある反面、これといった目玉施設がないため紹介も少ないという現状  
・宮前区に住んでいる人が宮前区をどのようにイメージしているかという調査では、「自然が豊か」という回答が最も多かったが、それでも麻生区や多摩区に比べれば少ない割合であった。また、「特になし」と回答した割合が7区の中で最も多かったのが特徴的(資料3-2参照)

⇒こうした宮前区のイメージ(実態と合っているかどうかは別として)も踏まえながら、今後の議論を進めていく(現在の審議段階:現状と課題の把握)

目指すべき方向性

地域みんなで共有できる宝物（顔）を通じて地域への誇りや愛着を育み、地域コミュニティの形成を図る。

全体会での意見など

- ・ときめき再発見はいい名前だ。宝が活用されないとときめかない。
- ・地域を高める。観光地として、住まいとしての価値を高める。宮前区には知られていない宝がまだまだある。
- ・新しいものを探すことも重要だが、あるものを利用して新しいものを作ることも必要。
- ・宮前区がどんなところかアピールするものがない。
- ・宮前区は緑がたくさんあって、きれいなまちのイメージである。いいまちだと多くの人が思えるようにしたい。

- ・「やってみたい」がたくさん出てくると良い。
- ・中学校区単位くらいで、地域のみんなで宝物を探してもらえるような動きにしたい。
- ・身近な地域での宝と区全体の宝の2本立てで考えられたらいいと思う。

宮前区の宝・顔に関する現状と取組

◆地域資源（宝もの）に関する現状

歴史文化・自然・活動・都市農業など多くの魅力的な資源はあるが、区民にあまり知られていない。

区内の資源を総括的にまとめたわかりやすい資料が無い。

観光協会が発足し、区内の魅力発信に向けた活動を開始した。

目に見える宝のほか、目に見えない宝として風土などがある。

◆宮前区に対する内外のイメージ

自然豊かで閑静な住宅地で、教育水準も高いといわれているが、繁華街が少なく、特徴・シンボルに欠ける面がある。

区のイメージで「とくにない」の回答した区民の割合が市内7区で最も多い（H15、市民1万人アンケート）。

「宮前区ってどんなまち？」と聞かれて、答えられるものや、共通のイメージが無いのではないか。

◆その他 宮前区をめぐる現状

宮前地区と向丘地区は、東名高速道路が概ねその境となっている。  
→宮前地区は相模の国の影響が、向丘地区には武蔵の国の影響が残っている？

元々、田園都市線沿線を中心に、良好な住宅地として開発されてきた経緯がある。

メディア等の露出が多いのは、田園都市線沿線の地域が中心である。

宝や顔があるまちのイメージ

◆区民一人ひとりにとって・・・

自分の住んでいるまちについて、区外の人に紹介することができる

地域に愛着を持っている（終の棲家とする）

地域を大切に思い、近隣との良好なコミュニケーションが図れている

◆地域社会にとって・・・

地域に愛着を持つ区民が多くなることで、豊かな地域コミュニティが形成され、地域の課題も地域が主体となって解決にあたっている

解決すべき課題

区の「宝」「顔」となりうる様々な資源を区内で共有し、区外には広くPRする必要がある。

PRを効果的に行うためには、資源の特徴をよく掴む必要がある。

【課題解決策に向けた検討手法】

現状の資源の特徴を把握

課題解決策イメージ

資源を宝物に、宝物を顔に押し上げていく具体的なプロセス

宝・顔に押し上げた区の資源を内外にPRするための具体的な手法

具体的な課題解決策（議論中）

◆地域で資源を発掘し共有化するための具体的な手法→小さな地域単位で資源を宝に押し上げる

【地域の単位、取組の進め方など】

- ・小学校～中学校区の地域単位で取り組む。
- ・地域団体や教育関係団体をはじめ、様々な世代、背景の区民が参加できる工夫をする。
- ・子どもを上手に関わらせることで両親、祖父母世代を取り込む。
- ・できる地域からモデル的、段階的に進める。

カルタづくり

- ・野川カルタをより広く周知し、他地域での取組を推進する。
- ・絵札の募集、読み札を俳句や短歌にする、カルタラリー、カルタ大会など更なるお楽しみや演出の工夫を凝らす

マップづくり（オプション）

- ・情報だけでなく遊びの要素を入れたマップ（メタボ対策ウォーキングマップ、お花見マップ、昆虫マップ、駅周辺観光マップなど地域の特色を活かしたマップ）
- ・マップを活用したイベントを開催する。

◆小さな地域単位の宝を区全体の宝にするための具体的な手法→区全体で宝に顔に押し上げる

【これまでのキーワード】

区民祭の活用/区政30周年に向けて/地域対抗の宝のコンペ

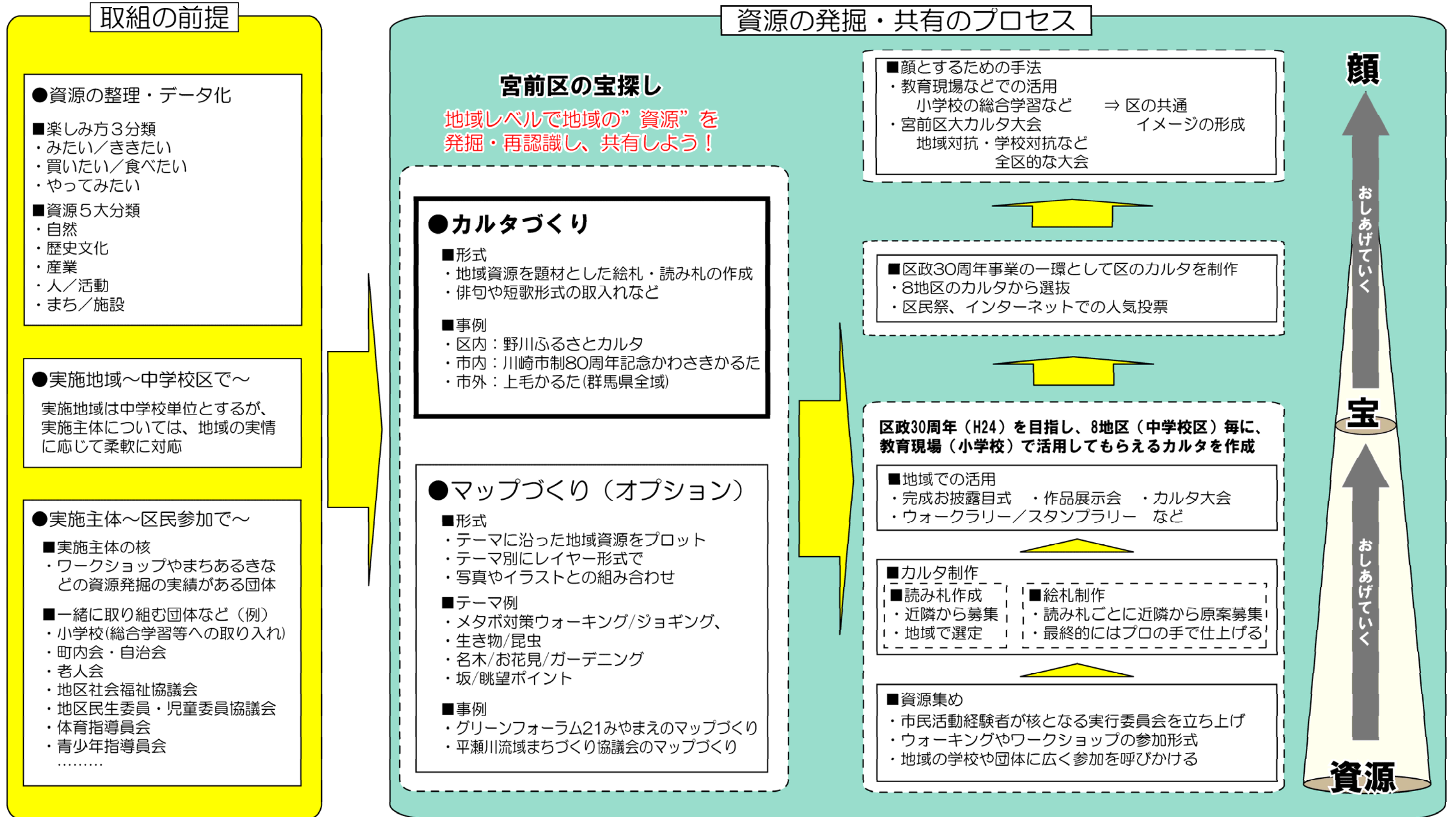
◆宝・顔に押し上げた区の資源を内外にPRするための具体的な手法

- ・映像コンクール 地元の宝をうまく映像としてとらえる
- ・みやまえぼーたろう PDFマップのダウンロードサービス

- ・小学校の総合学習など教育現場での活用
- ・宮前区大カルタ大会 → 区の共通イメージ形成
- ・地域対抗・学校対抗など全区的な大会

宮前区区民会議 宮前区の宝さがし～ときめき再発見～部会

課題解決策提案：区政30周年に向けた、地域資源カルタ・宮前区の宝物カルタ（仮称）の作成



今後の検討課題：取組の具体スケジュール、担い手、地域や諸団体への呼びかけのための資料作成など

平成20年度 宮前区協働推進事業評価一覧表

NO	事業名	目的及び内容	開始年度	予算額 (円) (A)	追加予算 額(円) (B)	最終予算 額(円) (A+B)	決算見込 額(円) (C)	不用額 (円) (A+B-C)	成果	次年度以降 の事業計画	具体的な展開方針 (※終了する場合は終了理由)	優先度	担当課
<b>1 安全で快適に暮らすまちづくり</b>													
1	安全安心まちづくり推進事業	区民、地域団体、事業者、行政機関等の連携・協働により、防犯・防火・交通安全などの推進を図り、暮らしやすい地域生活の環境づくりに取り組むため各種事業・施策の展開を図る。	平成18年度	5,875,000	0	5,875,000	2,222,142	3,652,858	前年度に引き続き、地域の小中学生、地域団体、関連企業との協働により第三梶ヶ谷トンネルの壁画を制作した。また、地域防犯活動の推進のため、防犯ベスト等の関連用品の貸与を行った。 このほか、交通安全、防災等の各分野においても、啓蒙活動及び広報を積極的に行った。この結果、環境整備と区民の防犯に対する意識向上が図られた。	見直し・改善の上継続	18年度の通り魔事件を契機として認識された、地域の防犯活動の重要性に対する意識・興味を衰退させることのないように、今後も、引き続き犯罪防止活動の推進に努める必要がある。トンネルの壁画制作はひと段落したが、今後も何らかのかたちで、防火・交通安全も含めて宮前区全体をおとした安全安心のまちづくりを進めていく。	B	地域振興課
2	区境・市境を越えた安全・安心まちづくり推進事業	近年、防犯活動への関心は高くなっており、区役所においても、警察や区民・地域との協働のもと地域防犯施策の推進体制を整備することは大きな課題となっている。犯罪等を未然に防ぐために安全で安心して暮らしていけるまちを目指して「宮前区安全安心まちづくり推進協議会」「子ども安全安心協議会」を中心として、警察や関連団体等と協働を行い、区境や市境を超えた連携を行うことにより、防犯の隙間を作らないような取り組みを行っている。	平成20年度	1,715,000	0	1,715,000	1,642,549	72,451	20年度は高津区、都筑区、青葉区、警察や関連団体と協働を行い、5回の合同パトロールを行った。また、区境地区における連携的なパトロール等防犯活動の活性化のために防犯ベスト、腕章をはじめとした防犯グッズの貸与を行った。こうしたことにより、区民の防犯に対する意識の向上が図られた。	現状どおり	犯罪等を未然に防ぎ、安全で安心して暮らしていけるまちを目指すには、地道な活動を継続する必要がある。「子ども安全安心協議会」で実施している地域安全マップを活用しながら環境整備に努めるとともに、各区境関連団体とさらなる協働を行い、防犯活動の拡大を図っていく。	A	地域振興課
3	子ども安全・安心見守り事業	宮前区子ども安全・安心協議会等を開催し、区内の学校、保護者をはじめ、地域住民、事業者、関係団体、警察、行政機関が連携し、子どもを犯罪から守り、登下校時等における子どもの安全を確保する。 実施内容：①子ども安全・安心協議会等の開催、②「宮前区子ども安全・安心通信」年2回発行、③各小学校区子ども安全・安心協議会が実施する「地域安全マップづくり」への支援	平成19年度	441,000	549,000	990,000	980,951	9,049	協議会等の開催を通して、地域の取組について情報交換を行い、登下校時等における子どもの安全を確保することができた。また、子ども自身が犯罪から身を守る力を高めるために関係機関と連携し「地域安全マップづくり」を5回実施。実際に子どもが地域を歩き、危険箇所を感じとる体験を通して、犯罪に巻き込まれにくい場所等を知ることができた。	見直し・改善の上継続	「地域安全マップづくり」の継続実施に向けて、関係機関の役割分担を明確にし、協力体制をつくる。また、インストラクター養成講座を開催し、インストラクターの確保、充実を図る。また、平成21年度は、未実施の小学校等に参加を呼びかけていく。	A	子ども支援室
4	防災意識普及啓発事業 (区民会議課題)	防災に対して区民一人一人が意識し、「いつ起こるかもしれない」大地震等の災害に備えるために、防災フェアの実施や防災ニュースの配布などを通して区民一人一人に防災に関する知識を根付かせ、防災意識の向上を図る。	平成20年度	2,000,000	0	2,000,000	1,705,108	294,892	まちづくり協議会に委託して実施した防災フェアにおいては、実際に様々な防災資器材等を展示・紹介し、また講習なども行うことで区民の防災意識の普及啓発を行うことができた。また「防災ニュース」を発行し町内会自治会等に回覧することで、ひとりひとりが災害に備え、防災意識を喚起することができた。2日間にわたって行われた防災推進員養成講座では防災に関する知識と啓発に関する手法等を修得し、各自自主防災組織における活躍が期待される。	現状どおり	近年、東北地方や新潟県などで大地震が頻発している。本市においても、いつ発生してもおかしくない状況のなか、区民一人ひとりの防災意識を向上させ、災害に備えることは極めて重要なことである。今後も災害時の被害を最小限に抑えていくためには、防災ニュース、防災フェア、研修等を通じて普及啓発活動を継続的に進めていく必要がある。	A	地域振興課
<b>2 幸せな暮らしを共に支えるまちづくり</b>													
5	高齢者健康づくり支援事業 (区民会議課題)	地域の身近な公園等で地域住民が、主体的に体操等の活動を展開していくように支援する。介護予防、生活習慣病予防、閉じこもり予防活動として、区内全域に活動が広がるように公園体操マップを地域住民や運動普及推進員と共に、また、地域包括支援センターと連携して作成し、情報を提供する。 公園体操マップの完成は22年1月、4、000部の予定。	平成20年度	103,000	0	103,000	85,701	17,299	公園体操が20年度6箇所増え、29箇所となった。立ち上がり時の自立支援や継続支援を行い、地域住民が主体的な活動を行っている。21年3月に主に公園体操リーダーを対象に、公園体操交流会を開催し活動紹介と情報や意見の交換を行い、公園体操の活性化を図った。 また、3月末に第1回公園体操マップ作成検討会を開催した。検討会のメンバーは、町会関係者、民生委員、運動普及推進員、包括支援センター職員等となっている。	見直し・改善の上継続	公園体操マップ検討会を21年度に4回程度開催し、公園体操マップを作成する予定である。公園体操が更に地域で広がるように、完成した公園体操マップを包括支援センターや老人クラブ等に配布し普及啓発する。また、公園体操マップを活用しながら地域ぐるみで介護予防、生活習慣病予防、閉じこもり予防に取り組む。	A	地域保健福祉課

平成20年度 宮前区協働推進事業評価一覧表

NO	事業名	目的及び内容	開始年度	予算額 (円) (A)	追加予算 額(円) (B)	最終予算 額(円) (A+B)	決算見込 額(円) (C)	不用額 (円) (A+B-C)	成果	次年度以降 の事業計画	具体的な展開方針 (※終了する場合は終了理由)	優先度	担当課
6	しあわせを呼ぶコンサート	音楽を通じて、障害者と健常者の相互理解と交流を深めながら、障害者の社会参加と自立を促進するため、宮前区内の障害者福祉施設・作業所に通う人々による合唱とゲスト(クラシック・ギター 高田 元太郎)によるコンサートを開催した。 開催日: 9月5日(金) 場所: 市民館大ホール 入場者数: 約700人。	平成12年度	2,738,000	0	2,738,000	2,737,984	16	第一部の障害者施設・作業所の皆さんの熱唱が、来場者(区民)の方々に感動を与え、障害者に対する理解を深めることに繋がった。音楽を通じて障害者と健常者が相互交流することができた。	見直し・改善の上継続	広く周知されるようになり、区民の関心も高くなってきている。コンサートは障害者が多くの区民と触れ合い、日ごろの活動を発表できる大切な機会であり、障害者の社会参加と自立を実現するためには、障害者福祉施設・作業所連絡会との連携・協力を進め、相互理解と交流の場としてより発展させる企画を検討する必要がある。	B	地域振興課

3 人を育て心を育むまちづくり

7	子育て支援事業 (区民会議課題)	広く区民に対し、子育て情報を提供するため、「子育て情報かわら版」(年2回、各20,000部)を発行する。 子育て支援関係者の連携を強化し、安心して子育てできる地域づくりを進めるため、子育て支援関係者連絡会に参加し、情報交換、区内の支援体制の協議を行う。	平成16年度	563,000	270,000	833,000	791,545	41,455	ウェルカムキャンペーンとして、乳幼児のいる転入世帯を中心に積極的に窓口で情報を提供し、より必要性の高い対象者に情報を提供することができた。また、「子育て情報かわら版」を町内会自治会へ広報することにより、多くの世代の子育て支援に対する関心、理解を深めることができた。 子育て支援関係者連絡会(子支連)及び子支連主催事業への参加により、関係者、団体との連携が強化され相互理解が深まった。	見直し・改善の上継続	子育て情報かわら版は、子育てガイド「とことこ」の補完とタイムリーな情報提供を目的に発行している。21年度は子育てガイドを改訂するため、それに合わせて内容を検討し、今後も継続発行を行う。	A	保健福祉サービス課 こども支援室
8	親と子の子育て応援セミナー事業 (区民会議課題)	「親の育児力」を育てるために、公立保育園と連携し、子育てに関する知識と技術を持つ人材を活用した親と子の学習の機会及び交流の場を提供する。 宮前区内の50組の親子を対象に連続講座(12回)を実施。	平成19年度	542,000	0	542,000	503,308	38,692	毎回グループワークを行うことで、子育てに関する意識が高めるほか、宮前区内の公園や施設、子育ての情報を伝えることができた。12回の講座を通じて色々な人とのつながりが広がり、「子どもを連れてセミナーに出席することが育児の励みになった」との声が聞かれ、家庭で育児する母親への支援となった。また、父親の育児参加を促し、育児を楽しめるような支援ができた。	見直し・改善の上継続	受講希望者がとても多く、転入者の出席希望もあることから、一人でも多くの希望者を受け入れるため、年2回(前期・後期)の開催とする。また、対象年齢を家庭内にこもりがちな低年齢(0~2歳未満)に見直しして実施する。	A	こども支援室
9	子ども支援ネットワーク事業 (区民会議課題)	宮前区こども支援関係者連絡会を開催し、子どもにかかわる関係機関、団体等とのネットワークの強化を図る。また、虐待など要保護児童等の早期発見、支援に向けた連携を強化するため、スーパーバイザーによる事例検討会や講演会を行う。	平成19年度	285,000	53,000	338,000	325,221	12,779	こども支援関係者連絡会を年2回、子育て支援関係者連絡会(以下子支連)は年6回開催した。その他に子支連の関連事業として、うえるかむクラス、子育てグループ交流会を各1回開催したことで、情報を共有できるようになり連携を強化することができた。また、年2回発行の「子育てかわら版」で、効果的な子育て情報の発信等ができた。 虐待などの要保護児童の早期発見・支援に向けた連携強化のために、スーパーバイザーによる事例検討会・講演会を年5回開催し、通報の判断、見守り方や役割分担の明確化等を理解することができた。また、事例検討会を2回開催し、委員を2グループに分けて2日間行ったため、少人数による活発な検討が行われ、顔の見える関係作りができた。	見直し・改善の上継続	子どもに関する施策を進めていく上で、関係機関・団体等との連携の強化を図ることは重要であることから、こども支援関係者連絡会を「子ども・子育てネットワーク」に名称変更し、委員構成を拡大して子育て関係団体・機関との連携を強化する。 虐待など要保護児童等の早期発見・支援に向けた連携を強化するための支援は、継続的に行う必要がある。また、事例検討会は、実際に支援を行う場合に迅速かつ確に行動がとれる内容となるよう、参加人数、開催回数、内容等の見直しを行う。	B	こども支援室

平成20年度 宮前区協働推進事業評価一覧表

NO	事業名	目的及び内容	開始年度	予算額 (円) (A)	追加予算 額(円) (B)	最終予算 額(円) (A+B)	決算見込 額(円) (C)	不用額 (円) (A+B-C)	成果	次年度以降 の事業計画	具体的な展開方針 (※終了する場合は終了理由)	優先度	担当課
10	みやまえスポーツ フェスティバル	従来から宮前区内で行われてきた複数のスポーツ大会を、スポーツ技術の向上、健康増進という共通の事業目的のもと関連した事業としてひとくくりにするとともに、新規の大会についても企画し実施することで、区民に対してスポーツ参加意識の向上を図っている。 内容としては女子バレーボール、ソフトボール大会、フットサル大会については、一定のチーム力を持ったグループが争う大会となっており、新規参加を促すより、限られた参加チームによるスポーツ技術の向上が目的となっている。歩こう会やディスカバーウォークについては、区民同士のふれあいや、高齢者や若年層の健康増進を図ることが最大の目的であり、広報を通じ、広く参加者を募っている。	平成3年度	2,282,000	0	2,282,000	1,857,142	424,858	スポーツ技術の向上を目的とした大会は、継続して参加しているチームが多く、スキルアップし大会内容が年々向上してきている。また広く参加を募る健康増進を目的とした大会は、区民がスポーツを通じてふれあう機会ができ、区民交流を図ることができている。	現状どおり	現在、事業目的は例年どおりほぼ達成されており、今後も幅広い世代・地域の住民に参加してもらうため、市政だより等を活用し広報を行い、区民の健康増進にさらに寄与できるよう事業を継続する。	B	地域 振興課
11	地域スポーツ促進 事業	スポーツのなど、区内で行われている活発な地域活動の情報を収集し、区役所掲示板で発信するほか、町内会・自治会を通じ各世帯に回覧する。地域や各家庭で共通の話題となる身近な地域の情報を発信することで、地域への愛着や関心を深めるとともに、スポーツ振興や世代間・地域間交流、親子のコミュニケーションづくりの一助とし、地域コミュニティを活性化させる。	平成20年度	94,000	0	94,000	63,817	30,183	当初予定していたスポーツ情報のみでなく、伝統行事、お祭りなど地域で行われているイベント等の情報を幅広く収集し、区役所が関わっていない地域のイベントを把握することができた。 収集した情報をもとに、開催日時と開催地域のマップを掲載したカレンダーを作成し、21年度に区内で行われるイベントを網羅した年間カレンダーを発行した。 発行後、電話での問い合わせなど反響も大きく、地域のニーズと事業の方向性をあらためて確認することができた。	見直し・改善の上継続	地域のイベントカレンダーを月間形式で毎月発行する。 掲載量や情報の即時性の点について改善するため、紙媒体でのカレンダー発行とともに、官民協働の地域ポータルサイト「みやまえぼーたろう」での情報発信を行う。	B	企画課
12	シニアライフ支援事業 (区民会議課題)	団塊世代の大量退職期を迎え、多彩な能力を持つ一方で地域との関わりが薄いといわれる団塊世代の活力を地域で活かし、また、団塊を含めたシニア世代の地域デビューや生きがい作りをサポートするために、宮前区シニアアドバイザーとの協働により、よろず相談窓口の開設や、地域コーディネートを学ぶ講座、シニア世代向けの講演会を開催する。 ・シニア相談窓口（毎週木曜午前に区役所ロビーで開設 開設日数：54日 延べ相談者数：約200人） ・地域コーディネート講座（1/14、2/18、3/4 連続3回講座 参加者：12人） ・「大人の文化祭」特別講演会（開催日：1/25 講師：中村敦夫 来場者：約500人）	平成18年度	1,796,000	0	1,796,000	1,160,419	635,581	相談窓口やシニア世代向け講演会には多くの来場者があり、訪れたシニア世代に対して地域デビューや生きがい作りのひとつのきっかけを提供することができた。 また、地域コーディネート講座を通じて地域活動の担い手を養成し、シニア世代の能力や活力を地域で活かすきっかけを作ることができた。 事業全体を通してシニアアドバイザーの能力や活力を企画・運営に活かすことができた。	見直し・改善の上継続	シニア世代の自己実現を支援しつつ、地域社会の活性化や地域課題の解決にその能力を活かすという事業目的に照らして、各事業の内容を精査し、シニアアドバイザーとの協働による相乗効果や好循環が生まれる仕組みを検討する必要がある。 シニアアドバイザーの任期を考慮しつつ将来的な事業展開の方向性を再検討し、アドバイザーによる組織的・自立的な運営体制の構築と、行政との適切な役割分担を進める。	A	企画課

4 環境を守り自然と調和したまちづくり

13	東名川崎インター チェンジ周辺整備 推進事業	川崎市北部の玄関口としての東名川崎インターチェンジ周辺の景観を整備することにより、川崎のイメージアップを図る。19年度、東名川崎インターチェンジ周辺整備推進協議会景観部会が作成した「東名川崎IC周辺景観デザイン提案集」を基に区民・企業・行政が協力しながら、まちなみの整備等に活かしてゆく。 ・東名土橋公園や沿道花壇の維持管理のために地元町内会を中心とした維持管理団体（土橋園芸クラブ）を支援し、地域との協働による緑の育成などの取り組みを推進する。 ・財団法人川崎市緑地協会や富士通株式会社川崎工場環境管理部等との連携による、景観まちづくりの推進を図る。	平成16年度	833,000	0	833,000	142,581	690,419	東名土橋公園や沿道花壇の維持管理のために地元町内会を中心とした維持管理団体（土橋園芸クラブ）が設立された結果、季節ごとに美しい花々が東名川崎インターチェンジ周辺を彩るようになり、川崎の北の玄関口としての景観は著しく向上し、川崎のイメージアップに大きく貢献できた。地元町内会を通じて、こどもから高齢者まで幅広く川崎の北の玄関口の景観に大きな関心と呼び起こした。	見直し・改善の上継続	東名川崎インターチェンジ周辺の環境を地域主体で維持管理し、魅力あるまちづくりをめざすため、土橋園芸クラブによる花壇の維持管理、環境・景観に関する勉強会・イベントの開催など、地域との協働による緑の育成等の取り組みを一層推進する必要がある。 19年度第2回東名川崎インターチェンジ周辺整備推進協議会において、20年度から22年度までの3年間を市民協働事業としているが、23年度以降の花壇の維持管理方法については、区課題事業である「川崎の北の玄関口周辺の再構築事業」とあわせて検討する。	A	地域 振興課
----	------------------------------	--	--------	---------	---	---------	---------	---------	---	------------	---	---	-----------

平成20年度 宮前区協働推進事業評価一覧表

NO	事業名	目的及び内容	開始年度	予算額 (円) (A)	追加予算 額(円) (B)	最終予算 額(円) (A+B)	決算見込 額(円) (C)	不用額 (円) (A+B-C)	成果	次年度以降 の事業計画	具体的な展開方針 (※終了する場合は終了理由)	優先度	担当課
14	宮前区役所屋上緑化事業	深刻化する地球温暖化現象・ヒートアイランド現象への対策として、区役所庁舎の屋上を緑化する。区民にとって身近な存在である区役所庁舎で屋上緑化を行うことにより、区におけるCO2削減の取組を広く周知し、区民の環境問題に対する意識高揚を図る。また、屋上緑化の身近な施工事例として事業者等の視察を積極的に受け入れ、区内事業所の緑化促進につなげる。 施工箇所：区役所南棟2階屋上 施工面積：115.5㎡	平成20年度	0	2,521,000	2,521,000	2,518,797	2,203	薄層コケ緑化製品の保水能力と蒸散効果によって屋上部分の温度を低減するとともに、併せて断熱材を施工したことによって建物の断熱性も向上させることができた 施工後、市民活動団体や事業者からの問合せや視察の要請があり、環境問題に対する意識の高揚や緑化促進のきっかけを提供することができた。	見直し・改善の上継続	施工後の経過を観察し、緑化資材の良好な生育状態を確保できた場合は積極的に情報発信を行い、区民や事業者の環境問題に対する意識高揚を促していく。また、効果を検証のうえ、区役所庁舎の他の部分の屋上へ順次緑化面積を拡大していく。	B	企画課

5 個性と魅力が輝くまちづくり

15	地域の魅力発信事業	19年度に設立された宮前区観光協会が行う地域情報の集約、整理、脚色、発信の基本事業と連絡し、サインボード兼チラシパンフレットラックの設置や観光情報調査員の募集などを行う。	平成20年度	227,000	50,000	277,000	196,350	80,650	鷺沼に設置したサインボード(観光ラック)の需要が高く、利用する方々のチラシの持ち帰りも多く、一定の成果を上げている。また、観光情報調査員の募集を行った。	現状どおり	サインボード兼チラシパンフレットラックを鷺沼駅に設置したが、今年度は宮崎台駅に設置予定であり、観光発信の重要な位置づけとなっている。また観光情報調査員の活動についても都市型観光の注目される場所である。	A	地域振興課
16	宮前区ガイドブック修正増刷事業	18年度には全面改訂を行い印刷したが、20年度中に在庫切れが生じる見込みとなったため、内容を点検し修正等を加えて印刷発注した。 A5版、本文80ページ、10,000部	平成20年度	1,313,000	0	1,313,000	1,260,000	53,000	宮前区の魅力を深く知ることができるため、子どもから高齢者まで人気があり、7月から配布して年度末には在庫が残り少なくなっている。このブックにより、宮前区への関心が高まり、区のイメージアップに大きく貢献した。	終了する	内容や仕様については5年に1回程度の割合で全面改訂を行っており、18年度に全面改訂しているため、次回全面改訂は23年度となるが、たいへん人気があり21年度末には在庫がなくなる見込みであるため、前倒しで全面改訂印刷することも視野に入れる。		地域振興課
17	宮前区ガイドマップ修正増刷事業	区役所窓口等で配布するガイドマップの修正及び増刷部数:10,000部(転入者分:6,500部、地域振興課等窓口設置分:1,500部、予備分:2,000部)、配布時期:9月 地図情報、施設情報等データ修正情報の更新及び増刷は原則として毎年度行い、5年に1度全面改訂を検討する。	平成20年度	998,000	0	998,000	976,500	21,500	転入者への配布以外にも様々な場面で活用されており、区の魅力発信と区民の情報収集手段としてニーズは非常に高く、費用対効果は極めて大きい。宮前区の魅力を紹介するガイド的な要素を多く含み、例年在庫が不足するほどの需要があり、区のイメージアップに大きく貢献している。地理的案内、主要施設、バス路線、避難所一覧や区の情報紹介など、多くの要素を含んでおり、区の貴重な情報発信手段のひとつとなっている。	終了する (ガイドマップ作成事業としては実施する)	区役所窓口で配布しているガイドマップは区民の貴重な情報源のひとつであり、ニーズが非常に高い。在庫切れを生じさせないよう印刷部数について検討した結果、今年度はみやまえふれあいスペースや有馬野川生涯学習施設等を新しく掲載し、広告掲載収入を見込み、従来と比較して5,000部多い15,000部印刷する予定である。		地域振興課
18	みやまえロビーコンサート	来庁する区民にうるおいのある時間を過ごしてもらい、親しまれる区役所の実現をめざし、毎月1回区役所2階ロビーでコンサートを開催する。来場者数は毎回200人前後、毎回レベルの高い奏者を迎え様々な音楽を提供している。	平成5年度	1,668,000	0	1,668,000	1,598,625	69,375	宮前区は他区と比べて音楽事業が少ないが、定期的に開催する貴重なコンサートとして毎回多くの来場者に良質な音楽を提供することができた。バラエティに富んだ出演者を配しており、毎回コンサートを楽しみに来庁する区民も多数おり、定期開催のコンサートとして定着している。	見直し・改善の上継続	定期開催のコンサートとして定着している。来場者が増えてきているため、安全の確保、会場や開催の形態などを検討、改善していく必要がある。	B	地域振興課
19	みやまえふれあいフェスタ	「笑顔であいさつ・元気で生きよう・愛のみやまえ」をテーマとして、さまざまな立場の人がともに笑顔で暮らすことができる地域社会の創出をめざすとともに、区民が主体的に参加することで、区民相互の連帯やコミュニティの活性化を図ることを目的としている。区役所、市民館及び市民広場を会場に、区内の福祉団体や市民活動グループの特性・ノウハウを生かした発表・交流を内容とする「ふれあい」を重視した体験型企画や出店を中心としたイベントを開催する。 開催日：5月18日(日)10時～15時、場所：区役所・市民館・市民広場、来場者数：12,000人	平成7年度	1,630,000	0	1,630,000	1,613,037	16,963	テーマに即した体験型の催しを数多く展開し、また「迷路の家」などの子ども向け企画を充実させてきたことや、実行委員の主体的な広報活動などにより、年齢層に関係なく、多くの来場者を得ることができた。イベントに参加する市民活動団体と来場する区民等が、体験型企画等を通じて交流することによって、区民相互の連帯や地域コミュニティ活性化が促進されるほか、市民活動団体の貴重な情報発信の機会となっている。	見直し・改善の上継続	4月のふる里さくら祭りに続く、宮前区の春のイベントとして、定着している。区民や市民活動団体の貴重な交流の場としても意義のある事業であるため、新しい人材や企画を取り入れながら事業展開する。区内の保育園・幼稚園協力による「笑顔の絵画展」を軸に、子どもから高齢者まで幅広く人気があり、多くの市民団体が積極的に参加しているこのフェスタを支援することは、市民活動を支援する区の方向に合致している。	B	地域振興課

平成20年度 宮前区協働推進事業評価一覧表

NO	事業名	目的及び内容	開始年度	予算額 (円) (A)	追加予算 額(円) (B)	最終予算 額(円) (A+B)	決算見込 額(円) (C)	不用額 (円) (A+B-C)	成果	次年度以降 の事業計画	具体的な展開方針 (※終了する場合は終了理由)	優先度	担当課
20	みやまえ太鼓ミー ティング	地域の太鼓団体を中心に、太鼓を通して宮前区に残る文化・伝統を再認識すると共に、演奏者・来場者相互の交流を図ることを目的とする。公募による区民で組織した実行委員会が企画・運営を行っている。出演団体メンバーも実行委員として参加し、その経験やノウハウを取り入れた区民主体の運営を行っている。前回から取り組み始めた出演団体による合同演奏では参加者間の交流が進み、演奏にも上達が見られた。 開催日：8月23日(土)、場所：市民館大ホール(雨天のため終日屋内)、来場者数：約1,500人	平成11年度	3,108,000	0	3,108,000	2,772,999	335,001	実行委員それぞれが伝統文化の担い手としての自覚をもち、単なる発表会にするのではなく、こどもワークショップや篠笛ワークショップ、合同演奏などを企画し、伝統文化の保存、継承に寄与した。当事業を通して団体間の新たなネットワークが生まれ、交流も深まった。 また、今回は第10回目の節目の年であったこともあり、ゲストに世界的に活躍している林英哲氏を迎え、太鼓についての歴史や説明を織り込んだレクチャーライブが実現し、来場者が伝統文化を知り、学ぶ機会を提供できた。	見直し・改善の上継続	実行委員会の熟度が高く、自主的な様々な企画・運営を行うことができる環境が年々整ってきている。出演団体同士のネットワーク活性化を図るとともに、地元の学生や活動団体と連携した企画を進めるなど、団体と地域とのつながりを深めることができる方法を検討していく。	B	地域振興課
21	みやまえ新春コン サート	公募による区民で組織した実行委員会による運営の下、区内を中心に音楽活動をしている個人や団体の参加により、相互の交流と協力でコンサートを開催し音楽を身近に感じてもらい芸術への意識の向上を図る。クラシックを主体とし、オーケストラと出演者の共演、アンサンブルでの演奏などコラボレーションによる構成を特徴としている。 開催日：1月11日(日)、場所：市民館大ホール、来場者数：約850人	平成18年度	848,000	0	848,000	818,970	29,030	実行委員、出演者同士が交流を図りながら、自主的かつ効率的に事業を運営することができた。スタッフ、出演者が協力してコンサートを作り上げ、来場者に対して上質のクラシックコンサートを提供することができた。	終了を見越して継続する	定員を大幅に超える入場希望があり、抽選により入場者を決定した。当日はほぼ満席となり、コンサートに対する区民の期待の高さが伺えた。実行委員会の熟度が高く、今年度は有料化に踏み切り完全自主運営を視野に入れた方法を検討していく。	B	地域振興課
22	カッパーク鷺沼地域 交流・活性化推進 事業	18年にオープンした「カッパーク鷺沼」を区のシンボルゾーンの一つに位置付け、カッパーク鷺沼内の5つの施設、保育園や小学校の児童・生徒・PTA、地元町内会等と協働してイベント「カッパーク鷺沼・秋まつり」を開催し、様々な世代や立場の人の交流を通して、区民・企業・行政が一体となったコミュニティの醸成やまちの活性化、地域の振興を図っていく。 開催日：11月29日(土)、場所：カッパーク鷺沼、来場者数：3,000人超	平成18年度	1,907,000	0	1,907,000	1,900,500	6,500	イベントを通じて、保育園や小学校の児童・生徒とPTA・町内会・老人クラブ等の大人の間で世代や立場を超えた交流を図ることができ、同時に、カッパーク鷺沼内の施設を超えた地域との交流によるコミュニティの醸成にも寄与することができた。また、イベントで実施したエコバックコンテストにおける特典サービスで地元商店街と協働したことにより、まちの活性化とともに地域の振興にも寄与することができた。	終了を見越して継続する	本事業により、「カッパーク鷺沼」を区のシンボルゾーンとして定着させ、この場所を中心とした地域で世代や立場を超えた多様な交流を促進させることができた。将来的には地域主体で交流促進やイベント開催していくことを目標に、今年度を事業最終年度と位置付け、地域の参加を積極的に促すとともに、地域主体で活動ができる体制作りを誘導・支援していく。	C	企画課
23	友好都市交流事業	区政15周年を迎えた平成8年度から「個性豊かな新しい都市生活文化を創造する区」の実現をめざすため、長野県佐久市との交流を開始。 友好塔氏交流委員会:3回開催 市民間交流事業:2団体にバス借上料の一部を助成	平成8年度	618,000	0	618,000	371,252	246,748	市民間交流事業が参加する団体や、りんごオーナー制度への申し込みなどがあり、交流について一定の成果があった。	見直し・改善の上継続	各事業を通して、区民が佐久市の文化に触れるきっかけを提供することができ、委員会としての一定の役割を果たすことができた。 委員会としての活動は20年度3月に終了した。今後は観光協会を主体に交流事業を継続していく。	B	地域振興課

6 参加と協働による市民自治のまちづくり

24	まちづくり推進事業	区民と行政との協働による魅力あるまちづくり推進のため、区民、地域団体、企業の代表、行政を構成員とした、まちづくり協議会を設置し「宮前区区づくりプラン」の推進及び実現を目指す。 20年度の理事会開催数は12回で、参加人数は毎回14~5人(定数23人)程度。市民活動への活動支援事業(広報紙運営委員会による「まちづくり広場」(発行部数約7,000部)を通じた市民活動の広報、資金支援運営委員会の活動支援金制度による活動支援など)、情報支援部門のネットワーク化委員会・ホームページ委員会・まちづくり学級等による市民団体ネットワーク化の推進など、中間支援機能についての役割を推進している。	平成9年度	4,889,000	0	4,889,000	4,001,722	887,278	中間支援機能を担うまちづくり協議会では、市民活動団体のネットワーク化が確実に進み、今年度はネットワーク化委員会がこれまでに情報収集した約70団体の活動情報を公開することができた。活動支援金については区内の17団体に資金支援するとともに、結果をHPに掲載し、市民活動の活性化に寄与した。広報紙運営委員会の「まちづくり広場」は21年3月号で165号を数え、区内の市民活動を区民自ら取材し掲載している。また、まちづくり学級を年間17回開催したほか、みやまえふれあいフェスタにおけるスタンプリリーの参加協力、第3回フォトコンテスト開催(応募作品81点)、まちづくり広場ラブみやまへの開催など多くの成果を上げることができた。	見直し・改善の上継続	宮前区区づくりプランの推進を図り、また区民活動を支援する中間支援機能を持つ組織としての役割を担っていくためには、まちづくり協議会の持つ人材と組織力は必要不可欠である。区民と行政との協働による魅力あるまちづくりを推進するためには、区民や活動団体を「つなぐ、むすぶ、ひろげる」といった活動が今後も重要であり、課題解決に向けて区民主体の、まちづくり協議会などと協働して、快適で住みやすいまちづくりを目指す。	B	地域振興課
----	-----------	---	-------	-----------	---	-----------	-----------	---------	---	------------	--	---	-------

平成20年度 宮前区協働推進事業評価一覧表

NO	事業名	目的及び内容	開始年度	予算額 (円) (A)	追加予算 額(円) (B)	最終予算 額(円) (A+B)	決算見込 額(円) (C)	不用額 (円) (A+B-C)	成果	次年度以降 の事業計画	具体的な展開方針 (※終了する場合は終了理由)	優先度	担当課
25	地域の課題解決に向けた事業提案制度	「参加と協働によるまちづくり」を実現するため、地域の課題を地域自らが発見し課題解決していくことを目指し、事業提案を広く募集・選定し、選定された事業を市民活動団体が実施する。 実施事業：第2回みやまえ映像コンクール 輝け生命(いのち)！！みどりの回廊ネットワークづくり	平成18年度	2,164,000	0	2,164,000	1,300,832	863,168	20年度は事業提案4つのうち2事業が選定・実施され、提案団体により実施された。2事業ともに、学校や地域から高い評価を得ている。地域が主体となって取り組むことで、より地域の実情に沿った魅力あるまちづくりをめざす1つの手法として、本制度は非常に有用である。	見直し・改善の上継続	今年度、提案のしやすさを確保するため受付期間を期間限定型から通年受付型に変更し、また継続期間の取り扱いや対象分野の規定、区民会議関係案件の手続き簡略化など、制度の整理を行った。制度リニューアルの効果や課題を検証しながら事業を継続する。	B	企画課
26	まちづくり支援事業	区民と行政との協働による魅力あるまちづくり推進を目的とし、まちづくり協議会だけでなく広く区民によるまちづくり活動に対してコンサルティングを行うことにより、市民活動の推進が図られるため、20年度から単独事業とした。まちづくり協議会や専門性を有するコンサルタントから適切なコンサルティングを受けることにより、区内のまちづくり活動のさらなる活性化を目指す。	平成20年度	3,539,000	0	3,539,000	3,538,500	500	まちづくりに関するコンサルティングを委託することによって、まちづくり協議会が中間支援機能を有した組織として、効率よく適切に活動することができた。 市民活動のネットワーク化やまちづくり広場ラブリやまへの開催には、委員の企画提案を実現させたコンサルの貢献度は極めて大きい。	見直し・改善の上継続	区民にとって住みやすいまちづくりを行うため、「まちづくり協議会」や区民のまちづくり活動に対して専門性を有するコンサルタントからの適切なコンサルティングは必要不可欠である。今年度から第6期の活動が開始されるにつき、従来の慣例慣行を改善し、新しい委員による新しい企画をコンサルタントを活用することで実現できるよう目指していく。	B	地域振興課
27	市民活動支援拠点ネットワーク事業	区役所内に設置している市民活動支援コーナー、向丘出張所内の市民活動支援コーナーと宮前連絡所における会議室等の貸し出し、21年度に開館した高齢者施設「富士見プラザ フォンテーンズ鷺沼」の1階部分の「ふれあいスペース宮前」と有馬・野川生涯学習支援施設によって、市民活動支援の拠点を区内全域でカバーすることを目的としている。また、向丘出張所内の市民活動支援コーナーは、18年度開設、19年度改修、20年度は集会スペースと作業スペースに必要とされる備品類の整備と利用者が外階段を昇降する際の安全確保のために手摺を設置することとした。	平成20年度	5,251,000	0	5,251,000	2,979,346	2,271,654	区内全域をカバーする市民活動支援拠点を整備することで、より多くの団体ニーズを反映した活動支援が可能になり、市民活動の活性化を図ることができる。区役所内の市民活動支援コーナーは約86団体が登録し自主運営している。向丘出張所内の市民活動支援コーナーは、備品類の整備により、登録団体が11団体増加し、集会スペースの利用回数も大幅に増加した。また、外階段の手摺設置により高齢者を構成員とする団体から安全に昇降できるようになったと好評である。	見直し・改善の上継続	21年度は「ふれあいスペース宮前」や有馬・野川生涯学習支援施設の開館にあわせて、ホームページで区内の市民活動支援拠点を紹介するとともに、ネットワーク化を図ることを検討している。向丘出張所内の市民活動支援コーナーについては、23年度の出張所機能再編時に支援コーナーが拡充される予定である。 機能再編の進捗に合わせて、更なる施設整備と運営方法の検討を行っていく必要がある。	B	地域振興課
28	窓口サービス等向上推進事業(繁忙期における申請書等の記載案内等の設置)	年度の替わる時期、区民課・保険年金課窓口のある2階フロアは、住所異動・健康保険の切り替え手続きなどのために、多くの区民が来庁する。受付待ちの長い列ができ、手続き完了を待つ方で、通路及び待合スペースは繁雑とした状況になる。この繁雑状況の緩和のため、窓口等の案内人を配置し、快適なサービスを受けられる環境をつくる。	平成17年度	490,000	0	490,000	484,340	5,660	4～5月及び2～3月、窓口案内と区民課各種申請書等の記載方法の説明・補助を行う案内役として、臨時職員を採用し、区民課の申請書記載スペースに待機、来庁者からの問合せに応じた。速やかに担当窓口を案内することで、人の流れを停滞させることがなく、混雑をやわらげ、また、申請書等の記載説明がなされることにより、窓口での受付時に、再度の説明・申請書の訂正といった作業が減少し、受付待ちから手続き完了までの時間短縮に効果をもたらした。	終了する	窓口案内人の配置は、混雑の緩和、迅速な業務処理をもたらす効果がある。平成21年度に組織改編が行われ、窓口のサービス向上を図るための担当が設けられた。今後は窓口サービス担当を中心として、職員配置、組織内の応援体制などの見直し、再考を行い、区民の方に満足されるサービスが提供できるよう体制を整えていく。		区民課
29	宮前区役所事業概要発行事業	区役所は多岐にわたる業務を行っているため、区民には業務内容や予算などの全体像が分かりづらくなっている。このため、区の事業や予算をまとめた冊子を作成し、区民に区の施策を分かりやすく体系的に周知するとともに、区の情報を積極的に発信し、共有することで、区民をはじめ様々な人たちが協働していく一助とする。 発行月：6月、発行部数：10,000部、配布場所：区役所、出張所、連絡所、行政サービスコーナー	平成19年度	756,000	0	756,000	635,145	120,855	区民課での転入手続きの際に配布するほか、区役所や出張所、連絡所、行政サービスコーナーに置いて希望者に配布したところ、区役所の広範な業務を一冊にまとめた冊子として好評だった。また、各種の研修や勉強会等で区の事業を説明する資料としても活用することができた。	見直し・改善の上継続	区役所の全体像を把握できる冊子として有効であることから、最新の情報を提供できるように、毎年掲載する内容を更新して発行する。ただし、編集作業を軽減するため、印刷とレイアウトを併せて発注する方向で検討する。	B	企画課

平成20年度 宮前区協働推進事業評価一覧表

NO	事業名	目的及び内容	開始年度	予算額 (円) (A)	追加予算 額(円) (B)	最終予算 額(円) (A+B)	決算見込 額(円) (C)	不用額 (円) (A+B-C)	成果	次年度以降 の事業計画	具体的な展開方針 (※終了する場合は終了理由)	優先度	担当課
30	窓口サービス等向上推進事業(番号表示システムの導入)	①窓口利用環境の向上、②来庁者への行政情報や地域情報などの各種情報提供、③待合スペース狭隘に伴う混雑緩和と待ち時間の快適化を目的として、区民課窓口に新たな番号表示システムを導入する。そのために、区役所庁舎の電源設備等の補修を行い、新しい番号札を作成する。	平成20年度	0	615,000	615,000	503,107	111,893	番号表示システムを導入したことで、ディスプレイ上に呼出し番号の他に地域の情報や区役所からのお知らせを表示できるようになった。これにより、各種手続きにかかる待ち時間を利用した効果的な地域情報などの提供が可能となり、来庁者の待ち時間のストレス緩和を図ることができた。さらに、2階ロビー既存テレビモニターと連動させたことで、ロビーの有効活用が可能となり、特に煩雑期等の待合スペース狭隘に伴う混雑が緩和された。	見直し・改善の上継続(番号表示システムについては終了する)	効果的な区内の情報提供ができるよう常に見直しが必要である。また、番号札の消耗について計画的に対応する必要がある。	A	区民課 企画課
7 その他													
31	宮前区役所BGM配信事業	庁舎内にBGMを流すことにより、区役所を身近で明るく親しみのある場所として提供する。	平成14年度	42,000	0	42,000	42,000	0	BGMを流すことで、庁舎内を明るく、かつ身近で親しみやすい空間とすることができた。またその結果として、区民を職員双方の心のゆとりを生み出すことになり、スムーズな対応等窓口サービスの向上という効果を生み出すことにも繋がった。	見直し・改善の上継続	配信内容の見直しを図りながら、事業の継続を行う。	B	総務課
32	バリアフリー推進事業	区役所北西側の歩行者通路・駐輪場スペースは、降雨時や降雪時に大変滑りやすく危険であり、過去にも来庁者が転倒し怪我をしたことがある。その為、歩行者通路・駐輪場スペースのノンスリップタイルへの張替及び段差解消の整備を行うことにより、区民が安全に、また安心して利用できる庁舎づくりを行う。	平成15年度	1,633,000	0	1,633,000	1,627,500	5,500	歩行者通路・駐輪場スペースのノンスリップタイルへの張替及び段差解消整備(約45㎡)を行ったことで、区役所利用者の安全性が向上した。	見直し・改善の上継続	15年度から継続して整備を行っているが、市民広場周辺など改善の必要がある部分はまだ残っている。今後も庁舎の安全確保のため、バリアフリー化を継続して行っていく。	A	総務課
33	管理運営経費	協働推進事業における事務経費		2,161,000	102,000	2,263,000	1,564,475	698,525	適正な維持・管理ができています				
34	緊急対応費			2,491,000	-4,160,000	-1,669,000	0	-1,669,000					
合計				55,000,000	0	55,000,000	44,922,465	10,077,535					

【緊急対応費について】

緊急対応費は、年度途中で新規事業や予算の追加を行う必要が生じた時の費用として準備している。当初予算では2,491,000円を計上していたが、年度途中で不足したため、各事業で不用となった予算から1,669,000円を緊急対応費に充て、総額4,160,000円を新規事業や追加事業に割り当てた。

【優先度の考え方】

A	<ul style="list-style-type: none"> <li>区民会議からの提案を踏まえた事業で、最初の数年間において重点的に行う必要のあるもの</li> <li>総合計画、その他行政計画等に位置付けられており継続して行っていく必要のあるもの(終了が見込まれるものを除く)</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>区民会議からの提案を踏まえた事業で、数年たって安定的な運営となり、特段の事情がない限り今後も継続して行っていく必要のあるもの</li> <li>これまで継続して行われてきている事業で、地域にとって一定のメリットがあるため、特段の事情がない限り今後も継続して行っていく必要があるもの</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>A及びBに当てはまらない事業</li> <li>終了が見込まれる事業</li> </ul>
斜線	<ul style="list-style-type: none"> <li>既に終了している事業(管理運営費と緊急対応費を除く)</li> </ul>